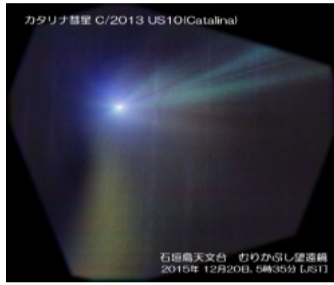


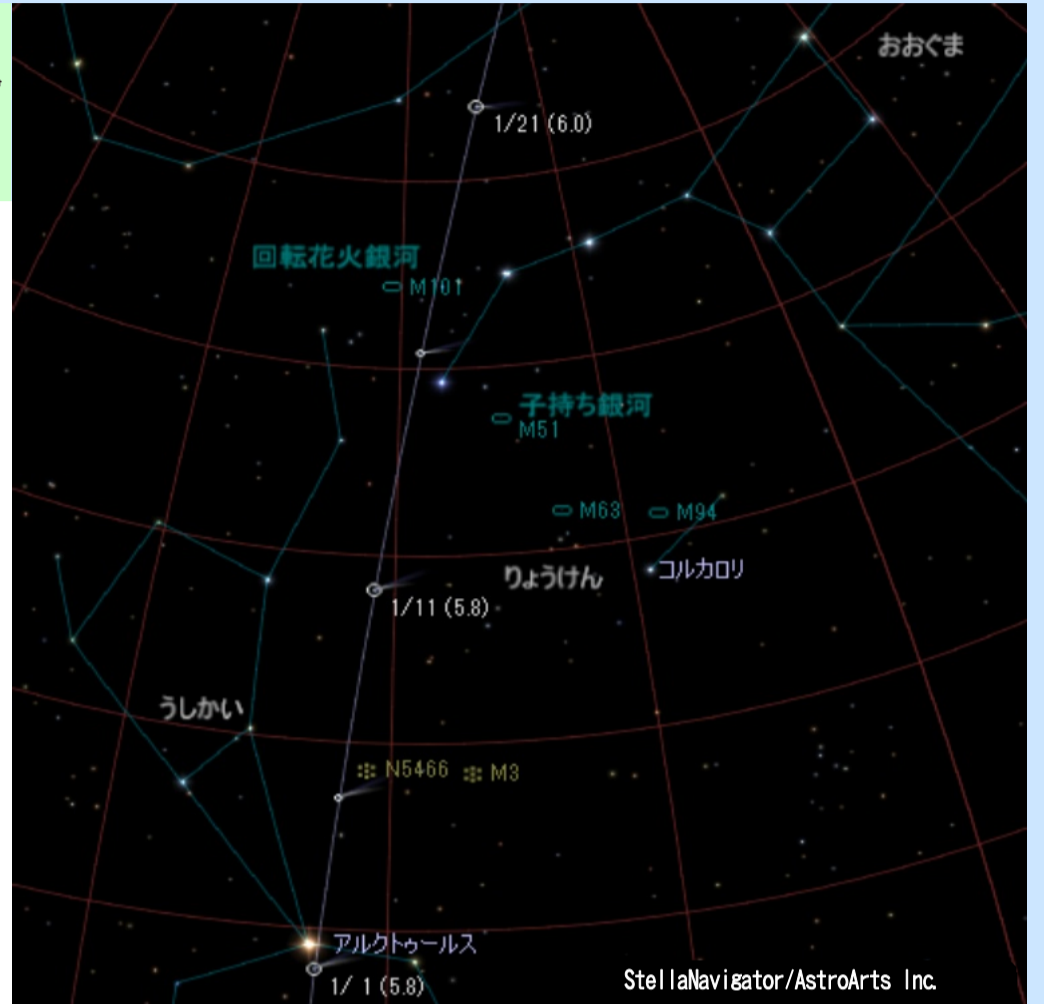
カタリナ彗星を探そう！

2015年11月16日に太陽へ最も近づいたカタリナ彗星は、いよいよ2016年1月にかけて4等星から5等星で見られると予報されています。その予報が正しければ、肉眼で彗星が見られるかも知れません。



お正月頃にうしかい座のアルクトゥールスの近くにいたカタリナ彗星は、北斗七星あたりに移動し、1月中旬頃までは未明から明け方に見やすくなります。観察に適した日は、17日頃がいいでしょう。北斗七星のひしゃくの柄の先の星を目印に探してみてもいいでしょうか。その後はしだいに地球から遠ざかっていきますので、ピークを過ぎた1月下旬からは一気に暗くなっていき、探すのが難しくなります。

カタリナ彗星は、2013年10月にアリゾナ大学の月惑星研究所のグループが発見した新しい彗星で、発見された当初は18.6等級というとても暗い天体でした。この彗星の軌道は、双曲線を描いていますから、太陽に近づくことは二度とありません。この時期だけしか見られない一期一会の彗星です。



1月の天文現象は？

カタリナ彗星と回転花火銀河

1月17日にカタリナ彗星が北斗七星の柄の先のあたりに来た時、目印の一つになるのがメシエ天体のM101「回転花火銀河」です。きらら号の望遠鏡で見ると、空の条件が良ければ渦巻きの様子がわかります。望遠鏡で見ると淡く見えますが、天体写真ではとても美しい姿を見せる天体です。



ぶりに地球に最接近します。1月30日には、太陽の西側90度のところにやってきて、いよいよ観測シーズンに入ります。見かけの大きさは、まだまだ小さいですが、だんだんと大きく明るくなっていきますので、その変化を見ると接近していることが感じられます。



火星については、3月19日からプラネタリウム番組「赤い惑星火星が接近！（自主制作番組）」で詳しく説明しますので、ぜひご覧ください。

火星の観測シーズン

火星が、5月31日に約2年2か月

2016年の星空

3月9日 部分日食

2016年に注目したい天文現象として、まずは3月9日の日食が挙げられます。東南アジアでは皆既日食が見られます。日本では部分日食になりますが、日本全国で観察することができ、南の地域ほど欠ける部分が大きくなります。四日市では太陽の15パーセントほどが欠けて見えます。博物館ではその日、市民公園で観望会を行います。

三大流星群

三大流星群の中では、ペルセウス座流星群(8月)は極大の時刻や

月齢の条件が良く、多くの流星の出現が期待できます。ふたご座流星群(12月)は月が明るく、また、しぶんぎ座流星群(1月)は極大時刻の条件が悪いので、多くの流星は期待できないかも知れません。

5月31日 火星の最接近

5月31日には火星が地球に最接近します。地球と火星は約2年2か月周期で近づきますが、今回ほど近づくのは2005年以来です。接近時は火星が大きく見えるため、観察の好機です。火星は一晩中見られ、近くにはさそり座の一等星アンタレスや土星も見られます。

日程変更のお知らせ

次のイベントの開催日が変更になりました。

《字幕付き投映》
「黒い太陽のひみつ」
2月20日(土) → 2月13日(土)

《字幕付き投映》
「おじゃる丸」
2月21日(日) → 2月14日(日)

《宇宙塾》
「4年ぶりの日食」
3月5日(土) → 3月6日(日)

お間違えのないようにお願いします。

★★観望会★★

《天文ボランティア主催観望会》

日時：1月16日(土)
17時30分から19時まで

場所：勤労者・市民交流センター
本館前の駐車場

内容：月や見ごろの星を観察します。

*当日の自由参加です。
*天候不順の場合は中止。
*きらら号は出動しません。

《博物館主催きらら号観望会》

日時：1月23日(土)
18時30分から20時まで

場所：市民公園
内容：月や見ごろの星を観察します。

*当日の自由参加です。
*天候不順の場合は中止。



編集後記

あけましておめでとうござります

2016年がスタートしました。1月の空は、きらびやかな星たちがまるで新年をお祝いしているかのようです。今年も星空をたっぷり楽しみましょう。



